春水北國奥画

ことぶきこぶるのぶらいちゆう

當ル未の新板

西垣文庫
文庫10
6750

文庫10
0-6750

柳い染布簾み翠をは。花い紅看板みなるを見も。その色々の御化粧道具油小間物の類まで。年来老舗の鄽そどゆりて簾末み品い決してあるを主顧ざの御見入賀うけ。替らぬ色の松金香。實み看板み毛筋立そど。空しざんせぬ本町の。御存ド知られ〜角店を。這回普請を倣せーと言ふより。賣初の景物み何ぐるあん慰みる。草紙を編との需み應ぶて。山東翁の前作み效ひ。狂言づくーの見立物。おんふ作者と茶ぬーみるさぶ。おのつい名らい名ら趣向と御覧の裡を願ふよふん

安政六ッとしふとーの吉事を菊月の中旬

爲永春水記

西垣文庫

「今はむかしのものがたりなれど
そのかきはじめこれなん
ひとりもてるうるはしの
ものがたりとて
ものとぞきくてあるをとける

とうかくとねりの
かそあのゆく松の
尾とのふあ〜ろへが
松とうたひとこころで
久安ぎゆうろうろへ
清元紅寿太夫
あいつとうろうよゆう
ろうのふ〜のとぐ
ちやぶ〜のゆうめ
うやがあるのと

三
園稲荷大明神

またぐ〜のゆうめ
よくさるのを
えぶ月が
ろうと
うろ

「おそあさる
あるさへ
ゆろそう」

▲山のゆうめ
おろかなとなさまを
ぐさりませ

玉屋

美黄金

美人画合

とてもこの二十四孝きろく火のごと
ぐきひめとのかりごろかつ
よりねとぎぬのやくがべぶぞあ
のくふねぐひがあいつともろ
こまもぎいぶんでつけの
やくろうろう
「まちしろうろうさん
あやとあやとがいつ用め
ろひーやうこまをきくろう
よあいつまる日をまちくひく
おまくのまぐこをまきぐーさをび
さまをやどろくしいえをるやふよのしの
「雲のひけ色の家風をと月ゐ
えるゆもあのまけーゆう
のまくるちじ
毒ろろもゆくよとあつ
ろうけこい

ちよろう
とて
ろへの
なみ
ひろ
へせねのめと
世臣にこせのまつぶ
毒せぶろひいろらもあ
るらびかふとさんとつくこるもかとる
がきてさいくとぎごろのえもぬり
きよあぎんとまゆうぞいさろるけ
「このろみがまるこまぶ
るぐゆりゆうくとて
ひとまをさちのを
「こまいきんくんのれこのみ
ゆいまくのあめをこるやげ
せーをきこるこあつくりとあつく
のりこををまこまこまつをひこまげ
まくこいまろうげのそあぶらう〳〵てゆん
みもせよろひてげこくさ
「ををこのろみきるるのつきゆろ
かりげのつみゆうるふふのさーぐー
くらゆりひぶくろのゆりいまを▲

▲みさとへ
あろろ
ゆろり
その
まく
こさ
しゆ
ドみ
巴用ざ
ろう

爲永春水作

梅蝶樓國貞画

松庵の義八年久しく店得意さまの店見習ひ日増に繁昌致す
店の雪踏成るべし毛金くさ江戸の店先りと寛加多勢弘有塩くの
ぐるの乃礼をとその夢初の亲物み者例多まべ七福神を書入まつ
草紙をべ店笑草み義こ不けうう人みも宝船みて積込種みいろく
と紙八紙紙し亜生ちまべ七福よりもまぐ矣き八百八町の
お客様ぐさおも帯ちぢ幾久しき清用を沢山生彩上の

一小町紅
一雲井清ぐん分
一松金香清ぐん分
一杉枕蝶清ぐん分
一きくぎく清ぐん分
一玉洗清ぐん分

一杉金清まつき油
一紅入清まつき油
一杉枕清まつき油
一雪井清まつき油
一杉亜清水油
一杉枕清多油

一丁子香 壱匁 白粉
一白拙 壱匁 丹 壱匁 白粉
一杉 壱匁 尾 壱匁 白粉
一雪の玉 壱匁 白粉
一玉ぬぐれ 壱匁 白粉
一五大力 壱匁 白粉
一小町香 壱匁 白粉
右之通化粉ニ仕壱匁五分ニ拵ぎ合申ぐ角ひ合ぎよ五分ニ拵ぎ
右之通玉ぬぐしし
一かほよ香油 業
一玉椿香油 業
壱匁化粉ニ新一切ホよしきめ
ちまもの申のみしてなれ新
幸ほし

一梅花 壱匁 水油
一ぼぐす 壱匁 水油
一ちぐちぼぐす 壱匁 水油
一ぼ 壱匁 水油
一椿 壱匁 水油
右ハ ちの紙ちの元稿ぐ
ふ申ム

一花乃 壱匁 少
一清化粉 水
七年 西ニ小ニ貴ニ物ハい
ぐ社水年 白ひ七分ニ物
のニ名元ひ ちの義ひ色水ち見
元申ム形方ニ元ものしちり貴
ぬ人ひ 申方ひ ニ壱ニ新ち業
弟一ひ製 壱仕へ ニ外ニの品

一唐焼 壱匁 白粉
一壱匁 白ひ 袋 品ニ
一壱匁 長撫ニ加めぐ
一壱匁 中撫ニ加めぐ
一壱匁 二のニ ちめく
一小枕分ニ加めぐ 品ニ
一壱匁 ちみぐき
一壱匁 角うじ 品ニ
一業 ぬぬ しし
一生 ぬぬ しし
一壱匁 根ひ新 品ニ
一壱匁 ちぬぐひ 粉

ニ壱匁のひ人ニ加めぐ
ちぬ申ム

一まき 縫ニし 類 品ニ
一壱匁し ニ類 品ニ
一三ツ ニし 類 品ニ
一毛ち ちち 三 類 品ニ
一ちぼ 壱匁し 類 品ニ
一丸ち ぐ 類 品ニ
一壱匁 ぐん 壱匁 類 品ニ
一加孫 ちぐ ぬ 粉
一文七 元結 品ニ
一茅小角物 新 品ニ

京都出店 日本橋通本町二丁目角 たまや

早稲田大学図書館
011688985872